

IX 学会等发表原稿

教職員向けゲートキーパー養成研修の事業評価と今後の在り方

佐倉市健康増進課 ○三橋葉子 池澤優子

I 目的

佐倉市では、健康増進計画「健康さくら 21(第2次)」の中間評価に伴い、平成31年3月に「いのち支える佐倉市自殺対策計画」を策定した。計画では、主な課題の一つに「若年層の自殺対策」を挙げている。

本市では、平成25年度から教育委員会と連携を図り教職員向けのゲートキーパー(以下、GK)養成研修を継続的に実施している。研修では、自殺の現状や基本的知識(自殺する人の心理、自殺の原因・動機、うつ病等の精神疾患、GKの役割、支援者の心構え、相談先一覧等)の講義と、ロールプレイ(声のかけ方、傾聴等)の手法を取り入れているが、若年層の自殺対策をより効果的な取り組みとする必要があることから、教職員向けのGK養成研修の事業評価を行い、今後の研修の効果的な取り組みの方向性について検討する。

II 方法

1. 調査対象：市内小中学校全34校の長期欠席児童対応職員(以下、長欠児対応職員)を対象とした「教職員向けGK養成研修(令和元年6月実施)」受講者33人
2. 調査方法：「教職員向けGK養成研修」会場にて、受講前後に無記名式アンケートを実施した。また、同対象者に1か月後に再度アンケートを実施した。(郵送にて配布し、7月31日～8月20日の期間に返送用封筒にてアンケートを回収した。)
3. 調査項目：年代、性別、教諭及び長欠児対応職員としての経験年数、ゲートキーパー自己効力感尺度(Gatekeeper self-efficacy scale, 以下 GKSES)¹⁾。1か月後アンケートには、播摩らが行った質的研究の結果²⁾を参考に、自殺予防活動への意識・態度・行動の自己評価の変化についての調査項目を追加し質問した。なお、尺度使用について開発者より承諾を得て使用した。
4. 分析方法：研修受講前後と1か月後のGKSESの平均値の変化を比較した。また、1か月後に意識・態度・行動の変化について追加の質問をし、回答の内容をデータ化した。整理した結果を基に、事業評価と今後の取り組みの方向性を検討した。
5. 倫理的配慮：研究目的を口頭と書面にて説明し、参加者のデータやアンケート結果は、統計的に処理し、個人や機関が特定されないように配慮した。

III 結果

1. 調査票回収状況と対象者の属性：研修当日の回収数33(回収率100%)、そのうち1か月後の回収数20(回収率60.6%)だった。性別は男性13人(39.4%)、女性20人(60.6%)、年齢は20歳代～60歳代が参加しており、50歳代が14人(42.4%)と最多だった。教諭としての経験年数は全員1年以上あり、10年以上と回答したものが24人(72.7%)と最多だった。また、長欠児対応職員としての経験年数は10年以上と回答したものが22人(66.7%)と最多だった。

2. GKSES 得点について

GKSES の平均値について、受講前と比較すると受講後の方が全項目とも上昇した。また、1 か月後も全項目において受講前より平均値は高い。しかし、受講後と比較すると1 か月後の項目 1~7 の平均値は横ばい、もしくは上昇しているものの、項目 8・9 は下降している。(表 1)

項目	n=33	n=33	n=20	変化グラフ
	受講前	受講後	1か月後	
1 自殺を行う人の心理について説明できる。	2.33	3.45	3.55	
2 うつ病に関する基本的な知識について知っている	2.79	3.79	3.95	
3 自殺の可能性のある人に接する上で適切な態度について知っている。	2.42	3.70	3.95	
4 自殺やうつ病のサインについてわかる。	2.64	3.88	3.80	
5 自殺の可能性のある人の話を傾聴することができる。	2.97	3.88	4.15	
6 「死にたい気持ち」や自殺計画を落ち着いて尋ねることができる。	2.52	3.76	3.80	
7 自殺動機のある人の相談を受ける場合にも、落ち着いて対応ができる。	2.52	3.73	3.80	
8 自殺の可能性のある人が用いることができるリソースを知っている。	2.21	3.64	3.40	
9 自殺の可能性のある人について必要な紹介先に繋げることができる。	2.42	3.97	3.70	
合計の平均値	2.54	3.75	3.79	

3. 自殺予防の意識・態度・行動の変化の自己評価について

変化したという自己評価が最も多かったのは、意識では「人とのつながりの大切さを知った(60.0%)」、態度では「相手の状況に合わせて話をするようになった(45.0%)」「考え方の多様性を認め、相手の状況を受容できるようになった(45.0%)」、行動では「研修を受けるなどスキルアップを図るようになった(25.0%)」「自分自身の健康に気を付けるようになった(25.0%)」であった。意識・態度・行動の変化をそれぞれ、平均値で比較すると意識変化が最も高く、行動変化は最も低かった。(表 2)

4. 受講者からの感想・意見

受講後アンケートの自由記載によると、ロールプレイについて「自殺したい人になりきったことで、相手に何を言ってほしいのかがわかった」「ロールプレイが勉強になった。理論でわかっているけど実践は難しかった」という記載が多かった。一方で、「事例への対処法を考える機会が欲しい」「事例等の話が聞きたい」と、具体的事例への対処法を求める声も多く聞かれた。また、児童生徒への自殺予防活動における今後の課題や必要と感じることについて、「児童生徒のささいな変化を見逃さない」などの『気づき』、「相談できる場所があること

(表2) 1か月後アンケート 自殺予防活動への意識・態度・行動の変化の自己評価

		(n=20)	割合(%)	平均(%)
意識変化	1 自分の今までの生き方を振り返るようになった。		15.0	29.0
	2 自分の内面と向き合うようになった。		15.0	
	3 自殺や心の健康問題に関心をもつようになった。		40.0	
	4 人とのつながりの大切さを知った。		60.0	
	5 地域の大切さを知った。		15.0	
態度変化	6 困っている人に声をかけるなど関心を示すようになった。		10.0	22.1
	7 自分に正直になった。		0.0	
	8 本音で相手と接するようになった。		5.0	
	9 個人情報の管理に注意している。		20.0	
	10 (相談相手として)相手の状況に合わせて話をするようになった。		45.0	
	11 傾聴できるようになった。		30.0	
行動変化	12 考え方の多様性を認め、相手の状況を受容できるようになった。		45.0	12.5
	13 専門機関につなぐことができるようになった。		10.0	
	14 ゲートキーパー養成研修の紹介や自殺予防に関する学習内容を伝えられるようになった。		5.0	
	15 困っている人からの相談回数が増えた。		0.0	
	16 児童・生徒だけでなく様々な対象の相談に関わるようになった。		10.0	
	17 研修を受けるなどスキルアップを図るようになった。		25.0	
18 自分自身の健康に気を付けるようになった。		25.0		

を常に知らせておくこと」などの『相談先の周知』、「職場内の情報共有・関係機関との連携」などの『情報共有・連携』、その他少数意見として「研修内容等の学びの共有」「家族支援」「SNS やインターネットの使い方の指導」などがあつた。

IV 考察

1. 教職員向け GK 養成研修の成果と課題

森田らによると、「GKSES 得点が高い者ほど、自殺に対する適切な認識を強く持っており、完璧なスキルを持たなくても、関わりを持つ自信や動機付けを持てるようになることが重要である」と述べている¹⁾。受講前後のアンケートでは、GKSES の全項目の平均値が上昇し、1 か月後アンケートでも受講前よりは平均値が高い状況である。

また、アンケートの自由記載や1 か月後の態度変化でも対人への接し方が改善していることから講義とロールプレイの手法を取り入れた研修により受講者の自殺対策への理解が深まり、研修目的は達成されたといえる。

一方で、相談先等に関する項目の平均値は維持できていないという課題が見えてきた。ロールプレイでは、声かけや傾聴の練習はするが、相談先の紹介の仕方までは取り入れていないため、社会資源や相談先に関する内容を深める必要があると考える。

また、徳山らによると、「学校コミュニティは、職員同士がどのような関係性であるかということも重要とし、教員が人を受け入れるモデルになること、相互尊重のもとに関係を構築しチーム援助ができる体制であることが一次予防・二次予防に必須」と述べている³⁾。アンケートの自由記載においては、校内研修等で伝えたいと記載した者は2名と少なかったことから、自殺対策の知識や情報を学校コミュニティで共有してもらえるよう働きかける必要があると考える。

2. 今後の方向性

今回の評価により、有効な講義とロールプレイの手法を取り入れた研修内容は継続実施とする。しかし、相談先等に関する項目の平均値は維持できていないことから、今後のロールプレイの演習内容には、声のかけ方や傾聴に留まらず、その先の『必要な支援につなぐ』という手法までを学べる内容としたい。

また、受講者による学校コミュニティでの波及効果を高めるには、自殺対策の知識や情報の共有に教育委員会との連携が更に必要である。併せて、具体的事例の対処方法を望む受講者の声も多いことから、事例提供のための情報を得る工夫も考えたい。

今後も自殺対策における課題の把握に努め、GK 養成研修の運営方法や事業内容などの見直しとともに、時代の流れや児童生徒のニーズ、支援者のニーズに即した事業展開を目指す中で、「若年層の自殺対策」をより効果的に推進していきたい。

V 引用・参考文献

- 1) 森田展彰他：自殺予防におけるゲートキーパー自己効力感尺度 (Gatekeeper self-efficacy scale, GKSES) の開発、臨床精神医学、44(2)、287-299、2015.
- 2) 播摩優子他：メンタルヘルスサポーターの自己効力感と活動による意識・態度・行動の変化に関する自己評価、秋田大学保健学専攻紀要、26(1)、79-85、2018.
- 3) 徳山美知代他：地域・学校コミュニティモデルによる自殺予防ゲートキーパー養成に関する検討、静岡福祉大学紀要、第10号、2014.

